

ウバザメ 日本周辺

Basking Shark, *Cetorhinus maximus*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近の動き

世界的には特に目立った動きは見られなかった。日本周辺での出現について、2012～2014 年は報告がなかった。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：雄 6～8 歳あるいは 12～16 歳、雌は調査中
- 繁殖期・繁殖場：調査中
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：プランクトン、小魚
- 捕食者：調査中

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料、皮は皮革製品、肉は生肉や干し肉として人間の食用、家畜飼用のフィッシュミール、肝油は工業用、化粧品用など。

漁業の特徴

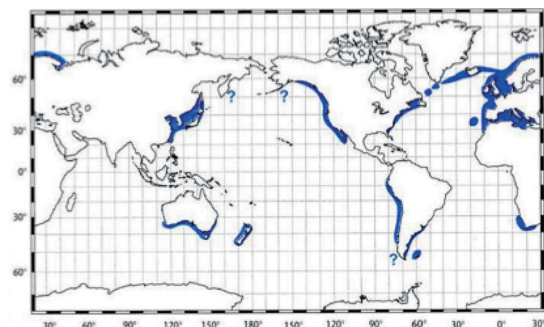
沿岸の定置網などに偶発的に迷入し、一部は水揚げされて市場に上がるものの、放流される個体も多いため取り扱いはばらばらであり、公式な漁獲統計はない。肝臓に利用価値があり、わが国では 1960 年代後半から 1970 年代にかけて、三重県波切で突きん棒により漁獲されていたが、最近はずっと行われていない。

漁業資源の動向

1967～1978 年の 12 年間に 1,200 尾以上が水揚げされたので年間平均約 100 尾であり、その内訳はわかっている年で、1975 年約 150 尾、1976 年約 20 尾、1977 年 9 尾、1978 年 6 尾であった。ただし、大量の来遊は 30 年周期で起こるといふ説もある。近年は稀に定置網への迷入が報告されるのみである。

資源状態

三重県波切で 1960 年代後半から 1970 年代前半に年間 100 尾程度の漁獲 (突きん棒による) があつた後は、ウバザメを主対象とする漁業はなく、現在は定置網への偶発的な迷入があるのみである。1960 年から 1970 年代にかけて三重県波切周辺に来遊したウバザメを年間およそ 100 尾近く漁獲していた頃に比べれば、来遊量は明らかに減少しているであろう。しかし、それ以前にも継続して大量に来遊していたわけではなく、大量の来遊は 30 年周期で起こるといふ説もある。1970 年代後半以降は、積極的に漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網の偶発的混獲の記録等があるのみである。



ウバザメの分布 (内田 1995、Last and Stevens 1994)

管理方策
<p>本種の規制措置はない。現在、我が国に本種を対象とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていないので、特に管理方策を策定する必要はないと考えられる。なお、英国はウバザメが絶滅の危機にあるとして、2002 年のワシントン条約第 12 回締約国会議で附属書Ⅱへの掲載提案を行い、採決の結果 3 分の 2 以上の賛成を得て可決された。このことから、ウバザメの魚体、鰭などを含む一切の派生物を国際取引する際は、輸出国による輸出許可書の発給が必要となり、また、公海域で採取し自国に持ち帰る行為についても証明書の発給が義務付けられる（海からの持ち込み）。しかしながら、我が国は、ウバザメの附属書Ⅱへの掲載に関して留保を付しており、締約国に輸出する場合には輸出許可書が必要となるものの、海からの持ち込みについての証明書の発給は不要となっている。</p>

ウバザメ（日本周辺）の資源の現況（要約表）	
資源水準	—
資源動向	—
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	調査中
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	年に 0 ～ 2 個体程度が定置網に迷入
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—